

# 鳥取県内、インフルエンザ患者急増

2.1

## 警報発令、感染予防を喚起

### 今からでもワクチン接種を

鳥取県内でもインフルエンザ患者が急増している。県は県内全域にインフルエンザ警報を発令し、県民に対して感染予防や感染拡大防止にさらなる注意を促した。近く感染拡大のピークを迎えることみられ、「今が、ピーク到来までに効果的にワクチン接種を受けられる最後のチャンス」と呼び掛けている。

県健康政策課によると、後も県内全域で流行が見込める。県は県内全域にインフルエンザ警報を発令し、県民に対して感染予防や感染拡大防止にさらなる注意を促した。近く感染拡大のピークを迎えることみられ、「今が、ピーク到来までに効果的にワクチン接種を受けられる最後のチャンス」と呼び掛けている。

県健康政策課によると、後も県内全域で流行が見込める。県は県内全域にインフルエンザ警報を発令し、県民に対して感染予防や感染拡大防止にさらなる注意を促した。近く感染拡大のピークを迎えることみられ、「今が、ピーク到来までに効果的にワクチン接種を受けられる最後のチャンス」と呼び掛けている。

2010年10月以降のインフルエンザ流行状況



ちに警報レベルにまで達した。

県健康政策課の石田茂室長は「流行開始から感染拡大の立ち上がりが急激。シーズン始めは成人が多かったが、流行とともに20歳未満の患者が増えている。学級閉鎖も相次いでいるの種だが、県全体の接種率は、家庭でも手洗いやうがい、マスクの着用など再度徹底してほしい」と訴える。

新型インフルの重症化が心配された一昨年の以降、施設や学校の入り口などには消毒液が設置されているが、石田室長は「感染して重症化しないという油断やなれから、予防対策や初期対応がおろそかになって

石田室長は「ワクチン接種は重症化予防にも有効」と強調し、「効果がでるまで早く2週間かかる。忘れないうちに接種してほしい」と話している。

いる。09年の新型インフル発生時は「あわてない」ことが大切だったが、あわてない人が増えすぎた」と懸念。県内では今季すでに2人の死者も発生しており、油断大敵だ。

学校や保育所、社会福祉施設などでの集団発生も相次いでいる。1月26日まで学級・学年閉鎖、休校などを行った学校・施設は延べ77カ所になり、学校サーベイランスでみる出席停止人数も同日現在1073人と高止まりが続く。

一方、感染予防と重症化予防につながるワクチン接種だが、県全体の接種率は12月末現在40.2%。小児(15歳未満)と高齢者(65歳以上)が半数を超える一方、15歳~64歳は26.9%にとどまる。